

「殴る」ことの問題点をしっかりと考えよう

東部地区中ブロック少年サッカー連絡協議会
委員長 野津育朗

県協会からパワハラ、セクハラの問題について、注意しなさいとの指示がありました。今の時代、人間関係の仕組みや考え方が変化し、昔当たり前だったことが今は通用しなくなることが多くなりました。これらの対策は、県協会に連絡があるから注意するのではなく、そもそも問題があるから注意するということが大事です。

昔は学校の部活（クラブ活動）でいわゆる気合を入れるということで、腿うち、ビンタ、げんこつ等による指導が普通にありました。この年代が大人の指導者になった今、「我々は厳しく育てられたけど、今の子供たちは軟弱になっており時にはこういった厳しい指導が必要だ。」「時には体罰も必要な時がある。」といった言葉を聞くことがあります。この発想が全て、子供たちに対する体罰につながっているとは思いませんが、私たちが受けた体罰による指導が、少なからず今も残り続けている原因の一つであろうと思います。

「体罰を利用した指導方法が今や古い指導方法であり、その方法よりもっといい指導方法があるのではないか」という新たな考え方を持つ努力をしていく必要があります。そこで、この体罰を用いた指導について考えてみたいと思います。以降、あえて体罰といわず暴力といいます。

先日、埼玉県大会のウォーミングアップで、子供たちを殴っている指導者がいました。「あのチームは、殴るのが有名で、子供たちも殴られるのを前提にして入団しているし、実際強いし仕方がない」という周りの評価もあります。

本当にそうでしょうか。殴られるとき、子供たちは首をすくめています。そのチームに入団する子供たち、保護者は、「そういうチームであっても自分は殴られない」と考え入団し、そのあと実際殴られても文句を言えば試合に出られなくなるので仕方がないと思っていることはないのでしょうか。

殴る指導者に聞きたいことがあります。あなたや同僚が職場で上司に殴られ、上司から「仕事がちゃんとできるように指導するためだ。」と言われた時、認知できますか？納得できますか？自分も部下を殴って指導ができますか？確かに昔の職工さんは親方からハンマーが飛んできたと言います。しかし今の時代、企業の人材教育は戦略的に行われ、理論的に仕事の方法を教わり経験を積んでいきます。

子ども達の思っていることも、まったく同じです。自分の問題点や課題を、しっかりと論理的に指導して欲しいと思っています。そうではないと考える人は、子供たちがそう思っているのではないかと考えてみるべきだと思います。

当然しっかりと指導しないといけない時もあります。その解決方法は暴力ではありません。殴ることを美德にして指導することは、まったく幼稚な指導方法です。「自分は人間関係を作っているから大丈夫」、「自分には愛がある」、「殴る自分の手が痛いんだ」、「殴るこ

とによって素晴らしく伸びた」、……。いろいろな言い分が聞こえます。しかし殴ることに愛があるはずもありません。昔でも殴られて愛を感じたこともありません。きっと、殴らなければもっと伸びたのではないかと。

選手である子供たちは乱暴なプレイをすれば退場処分となります。指導者が暴力をふるうのとは違う?? 違います。乱暴な行為は、誰がやってもいけないことなのです。しかも弱い子供たちに対して、指導の名のもと「体罰」をふるうことはハラスメントではなく「暴力」なのです。

県大会の会場で殴る指導が行われているという前時代的な状況から、子供たちを一人の選手として、さらには一人の人間としてみるのが大事です。暴力の前に、もっといい指導方法はないかと考えることです。殴らなければ、もっと素晴らしいプレイ、選手になります。殴ることが、暴力、傷害行為であることを前提に、それを排除し新たな指導方法を考えていく、つなげていくことを、推進していかなければいけません。私たちは、暴力排除に向けてしっかりと考えていくこと、指導に対する考え方のレベル向上を図っていかなければなりません。

殴る指導をやっている人や問題ないと思う指導者は、いけないことなのだと考え、違う人間関係の作り方、指導方法を見つけてください。

子供たちに対する暴力はダメだと考えている人は、是非思いを伝えていってください。さらに、言葉による暴力の問題についても考えてください。

そして、選手のみならず、ベンチ、保護者、チームのほか少年サッカーに関係する全員がフェアプレイの気持ちをもったスポーツ活動としていきましょう。

以上、

補足

セクハラについても同じことが言えます。「自分は人間関係を作っているから大丈夫。」、とんでもありません。受ける側は、そんなやつとは人間関係を作りたくもありません。しかも子供たちのことを考え、耐える思いで「笑って」逃げるしかありません。この「笑い」を人間関係が作れていると絶対に勘違いしてはいけません。昔はこんなことはいわれなかったと思う人がいるかもしれません。昔はこんなことは考えていなかっただけです。